

チェコ現地校における体育授業の実際とその教材及び人材の活用

前ブラハ日本人学校 教諭

福岡県大野城市立大野中学校 教諭 上野 秀人

キーワード：現地校教育，現地教材，現地人材の活用，体育科学習指導

1. はじめに

2009年4月5日、チェコ・ブラハは世界平和の発信地となった。アメリカ合衆国オバマ大統領の「プラハ演説」により、核兵器のない世界の実現に向け努力していくことと、各国の協力・協調を呼びかけたからである。そもそもチェコは、オーストリア、ドイツ、ロシアなどいくつもの帝国の盛衰を間近に見聞き体験し、他国に影響を受けながらも独自の文化的・政治的主張が在った。教育の分野においても同じである。

現在のチェコの教育制度及び内容においては、隣接した国々の民族、言語、宗教、文化、経済に影響さらされながら、先進的な国々の教育システムを自主的に取り入れていることと併せて、独自の教育内容が息づいている。これは、チェコ基礎学校の体育の学習指導においても同様である。チェコの学習指導要領では、保健体育的な内容を「5.8 人間と健康」の教育領域で示し、3つの活動に分け記している。

- ①健康に影響を与える活動
- ②運動能力レベルに影響を与える活動
- ③運動学習を支援する活動

これらの示し方は日本の学習指導要領と若干違い、基礎学校で「何を、どうして、どこまで学ぶ必要があるのか」といった、学習する意義とミニマムを示したものとなっている。これは、アメリカの標準カリキュラムの示し方と類似している。さらに、健康的な意義を保健体育が担うという考え方を踏襲しているといえる。

このことから、チェコは全体性として先進的な国の教育システムを取り入れようとしていることが伺える。次に、学習内容の細部としては、「②運動能力レベルに影響を与える活動」に示した「スキー、スケート」「ハイキングと自然教室」というチェコの自然に密接に関係する活動と「運動競技」「体操の基礎」「スポーツゲームの基礎」の中で「器具や道具、大きさ・重量に合ったボール」等を使った運動を提示していることから、チェコの独自性を取り込むことにも積極的であると判断できる。

そこで、本研究では、独自の教育内容として息づく「器具や道具、大きさ・重量に合ったボール」と「スキー、スケート」を使った運動が、現在のチェコ基礎学校の保健体育科の学習指導において、どのような学習内容と指導方法で実施されているかを、現地のスポーツ活動と現地校での体育授業の実際として知るとともに、日本人学校の体育授業に活用することと、今後の日本での教育活動に活かすことが可能な「A：チェコ現地理解の内容」、「B：学習の内容」、「C：指導方法の視点」を明らかにしたい。

2. チェコの現地校や在外教育施設での体育的活動の実際

I 「大きさ・重量に合ったボールを使った運動」についての現地校授業の実際

(1) ヴェリヒ基礎学校 8 年生（中学 2 年生）のボールを使った運動

- ・チェコボールは、直径 1 メートルのバランスボール（以下 G ボール）を用いて、6 人制バレーボールの広さのコートと 1 m の高さのネットを使用する。
- ・本内容は、本校所在地のジェピー地区にある現地基礎学校 3 校と本校の体育担当教師が集まり、同一教材によるスポーツ交流を視野に入れた勉強会でもある。

| 学習活動 (50分) | 学 習 内 容 |
|---|---|
| 1 出席・健康確認 2 ウォーミングアップ (1) ストレッチ (2) ボール操作の運動 | ・ストレッチ：全体で簡単なストレッチを行う。 ・片手や両手を使ったパスなど、ボール操作の運動をする。 |
| 3 ゲームを行う。 ルール ・ボールは、ワンバウンドまでよい。 ・ネットにボールや選手のからだの一部がふれてはいけない。 ・サーブは卓球同様、ボールを自陣地からバウンドさせて相手陣地に入れる。 ・1回の攻撃で3回までボールにさわってもよい。 | ・4チームに分かれ、2チームずつの対抗ゲームをする。 〔場の工夫、教師の指導及び解説〕 ※体育館には、ネット、ゲームに対応したボールが固定設置されており、容易に準備できる状況にある。 ※ゲームをしながら試合の仕方を適時解説した。 ※2度目のゲーム後は、個人の技能に応じたボール操作のコツと参観教師に指導ポイントを解説した。 |
| 4 まとめ | ・教師が本時の授業態度や活動に対して反省・賞賛した。 |

本時は、大きなGボールを使用したボール運動「チェコボール」の学習を男女共修で行った。現地校には、ボール運動の学習に必要なネットやボール等の施設・用具があり、それほど準備時間を必要としないようである。本授業を観察・分析すると以下の特徴が挙げられる。

- ・教師主導型の技術指導が中心で展開し、課題解決的な学習ではなかった。
- ・実際にゲームをしながら、適時ルールを周知する指導が行われた。

これらから、チェコの学習指導要領に示された内容が授業者の教材化の工夫によって行われていることが伺える。

【今後の教育活動に活かすことが可能なこと】

A：チェコ現地理解の内容

- ①Gボールを使用したボール運動「チェコボール」の教材化がチェコで開発された。
- ②車椅子に乗った方の発案であり、その運動教材が体育授業に取り入れられるという事実がある。
- ③チェコの体育館では、ボール運動に必要な施設・用具が整っており、容易に準備できる。

B：学習の内容

- ①バレーボールに類似しており、単元の導入段階もしくは、バレーボールの学習につなげる基本学習、あるいは3段攻撃などの戦術を高める発展的な学習としても取り扱うことが可能である。
- ②バウンドが許されているので、バレーボールよりも時間的・空間的に動きの余裕がある。また、ルールの工夫によって、車椅子の方や異学年の子どもと活動するなど、交流の可能性が広がる。

C：指導方法の視点

- ①近隣の学校相互で新教材についての勉強会及び検討会が設定され、スポーツ交流を視野に入れた活動へと発展させることが可能な体育指導者組織が確立している。

(2) プラハ日本人学校中学2年生の球技「チェコボール」の実際

クベトバー先生をゲストティーチャーに招き、「チェコボール」の学習を本校で実施した。本校にはチェコボールの学習に必要な施設（ネット、ボール）はないが、現地校の教師から直接指導を受けることで、レシーブといったボール操作などゲームの具体的な動きやルールを適確に身に付けることができた。また、チェコボールに対する興味と次回の現地校との交流に対する興味を高めることができた。

【今後の教育活動に活かすことが可能なこと】

A：チェコ現地理解の内容

- ①チェコの基礎学校の教師が、日本人学校の講師招聘に応じ、ゲストとして指導してくださる。

B：学習の内容

- ①チェコボールは、会場施設や技能の実態に応じて、ルールやゲームの仕方を容易に工夫できる。

C：指導方法の視点

- ① ルールの把握や技能の習得が見られた生徒を称賛したり、ミスについての解説を適時指導した。
- ② サーブやレシーブの基本的な技能習得後、攻撃に結びつける戦術に関する指導を徐々に行った。

(3) ジェピー地区 4 校による「チェコボール」のスポーツ交流



写真①：チェコボールの交流試合の様子

ジェピー地区の現地校と日本人学校の4校でスポーツ交流会がヴェリヒ校体育館で行われた。目的は、4校が一同に会し、競い合う中で親睦を図ることであった。チェコボールは、バレーボールにつながる教材として取り組みやすい球技であり、現地校の生徒といっしょに汗を流し、どの試合も白熱したゲームとなった。また、競技後には表彰もあり、お互いの健闘をたたえ合った。今後もチェコで行われているスポーツ学習にふれ、本校の運動カリキュラムを充実させながら現地理解に役立てたい。

【今後の教育活動に活かすことが可能なこと】

A：チェコ現地理解の内容

- ① チェコの教師の働きかけにより、現地校と日本人学校の4校で交流試合を行うことができた。
- ② 「チェコボール」の考案者と車椅子に乗り実際にチェコボールを楽しまれている方が来られて、普及活動の実際とその意義について知ったり、深く考えたりする機会を提供していた。

B：学習の内容

- ① 施設の状況に応じて、ゲームの仕方及びルールを変更し、開会セレモニーで承認を得ていた。
- ② 閉会セレモニーでは、各校の先生方が署名した賞状とメダルが授与された。

C：指導方法の視点

- ① 現地校の教師は、称賛に値するプレーや態度を見逃さず、他校の生徒でも称賛していた。

II 「スキー、スケート」の現地活動の実際

(1) チェコにおける「スキー、スケート」の現状

チェコの気候は亜寒帯に属し、冬季の平均気温は0℃を下回る。1000mを超える山は、ポーランド国境に近いチェコ北部のクルコノシェ連山地域と、ドイツやオーストリア国境に近い北西部及び南西部のシュマバ地域にスキー場も点在する。また、川や池は凍り、自然にできたリンクでスケートもできる。以上のように、チェコでは地形や気候によって冬季にも自然とふれあい楽しむスポーツが存在していた。



写真②：凍った池でスケートを楽しむ様子

【今後の教育活動に活かすことが可能なこと】

A：チェコ現地理解の内容

- ① チェコでは、地形や気候の違いを活かした特徴的な運動教材がある。冬季では自然とふれあうスポーツとして、家族でスキーに出かける姿や、近くの川や池でスケートに興じる姿が見られる。
- ② 学校教育のもとで、スキー実習が日帰りもしくは宿泊を伴う形で実施している学校も少なくない。
- ③ 地域の文化施設が主催で社会教育の団体やYMCAなどの活動団体が、それぞれの運動・活動プログラムを設

定し、冬期の運動・活動を多数実施している。

B：学習の内容

①運動技能の習得と現地理解を目指した体育及び総合的な学習の時間を合科学習で設定できる。

(2) プラハ日本人学校のスキー学習の充実に向けた取り組み

本校では、平成5(1993)年度から宿泊を伴うスキー教室が実施され、15年以上の指導実績をもつ学習活動となっている。生徒数増加に伴って実施学年を検討し、平成20(2008)年度から小学4年生以上が宿泊を伴うスキー教室、小学3年生が1日スキー学習となった。そこで、この期にスキー技能の明確な目標と学習内容、指導方法及び評価規準・基準を設定した。さらに、平成20・21年度は指導方法について、職員研修を以下のように取り組んだ。

ア) スキーとの出会いの大切さ：スキーとの出会いにはじまり、学習の過程の中で、人と出会い、自然のよさを実感し、楽しみ方を獲得していく。つまり、児童生徒に、チェコで盛んな冬のスポーツとしてのスキーを経験させ、技能向上を目標にした学習実施のために、指導者が指導技術を高めることが大切である。

イ) スキーの指導方法：

(1) スキー指導でよく使う言葉

①ターンの仕方とターンに必要な3つの技術(角づけ・荷重・抜重)の確認、②3技術に関して、よく使う言葉やターンに必要な3技術を整理し提示したことで、指導でよく使う言葉の意味を理解し発してもらえた。

(2) 3つの技術を意識したイメージ指導

①足首を動かさない運動、②板をもつてのイメージ運動、③体重計の上で、荷重・抜重の確かめ、3つの技術を意識したイメージ指導では、二人の教職員が互いに状況を確認できるように実技体験した。このことで、スキー技術の理論を感覚的、視覚的に体験しながら指導技術を高めることができた。

(3) スキー靴と板を装着しての活動

①スポンジマットの上で、角づけ、荷重、抜重の確認、②カニさん歩きで荷重の確認と移動練習、方向転換の練習、③斜面を使って角づけの確認と階段登行の練習

この研修後、これまでのスキー装着の学習からイメージ練習や歩行指導などの事前学習が行われた。また、指導でよく使う言葉を技術との関連から整理したことで、系統的な指導が可能になった。

3. まとめ

チェコにおける現地教育事情として、スポーツ活動と現地校での体育授業を取り上げ、その実際を知るとともに、在外教育施設である日本人学校の体育授業に活用することと今後の日本での教育活動に活かすことが可能な「A：現地理解の内容」、「B：学習の内容」、「C：指導方法の視点」を明らかにすることを試みた。その結果、以下のような知見を得ることができた。

① 現地校では「器具や道具、大きさ・重量に合ったボール」等を使った運動において、チェコで生まれた運動教材「チェコボール」を行ったり、「スキー、スケート」といったチェコの自然に密接に関係する運動を行ったりして、チェコの独自性を取り入れていた。

② チェコの独自性の高い運動教材には、次のようなよさを確認できた。

A：チェコの現地理解につながる内容が豊富に内在している。

B：技能や戦術の高まりを学習課題にでき、自然や施設環境に応じた運動経験を提供できる。

C：活動の場や技能に応じた指導の仕方や称賛といった教師行動を学習の深化とともに確認できる。

③ 在外教育施設の日本人学校において、現地校で行われているチェコの独自性の高い運動教材を学習することは、「現地理解を深める観点」、「交流活動の活発化を高める観点」、「教師間交流の活性化の観点」から有効かつ効果的な取り組みとなる。